

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ヒューマンライフケア大倉湯(1F)	評価実施年月日	平成22年1月29日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月14日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>入居者様や職員が入れ替わっても理念に対する思いが変化しないよう、常に理念を意識しケアしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	<p>理念についての説明を行い、申し送り等の機会を利用し日々確認していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も御家族様には理念の説明をさせていただき、御家族様だけでなく、地域の方にも理念を理解していただけるよう取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>外出時・散歩時には笑顔で挨拶をし、日常的な会話をしよう今後も努めていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	<p>地域主催の行事参加だけでなく、地域の方々にも参加して頂けるような事業所主催の行事を開催したい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>講演会以外にも地域高齢者に役立つ事が無いかわ職員で話し合い考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>全職員ひとり一人が自己評価を実施しているが評価の意義の理解を充分出来ていない。</p>	○	外部評価の実施に関する勉強会・実施後の報告会を開催する事で、実施意義の理解や具体的な改善に取り組み、今後のケアに活かしていきたい。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では外部評価についての説明や報告を行い、包括支援センターや町内会の代表者からの意見を求めているが、サービスの向上に活かしていない。</p>	○	運営推進会議の出席者の方から活発に意見を出して頂けるような、議題・資料などを工夫し提供していくように努めていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>各区の生活保護課・市の介護保険課等との連携は取れているが、その他担当者との運営推進会議以外での交流はない。</p>	○	市町村との連携を図る為、交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>外部研修、職場内研修などで学ぶ機会はあるが、全職員が参加するに至っていない。入居相談時に必要に応じて、管理者等から説明している。</p>	○	外部・内部研修会などに全職員が参加出来る機会を持ちたい。成年後見制度については実際に利用されている入居者様もいらっしゃるのでもっと詳しく理解する必要がある。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待の定義・防止のためのマニュアルがあり、職場内研修を実施している。職員間での意見交換や日々の声の掛け合いで虐待防止に努めている。</p>	○	虐待の定義を正しく理解し、虐待が起こらないためにも、認知症の理解を深めていく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時にはゆっくりと契約書を読み上げ、各箇所毎に疑問点などを確認しながら説明し理解・納得が得られるよう対応している。</p>	○	今後も入居者様・御家族様が安心して過ごしていただけるよう話し合いや説明を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の言葉・表情や態度などから不満などを汲み取るよう努力している。また、ご家族様の面会時には自室などで自由に過ごして頂き、ご家族様に本音を伝えられるよう配慮している。ご家族様を通して意見や不満を伺い、ケアや運営に活かせるよう努力している。	○	今後も遠慮なく意見や不満、言いたいことが言える雰囲気づくりを継続していく。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	金銭管理については、会社の取り決めがあり、出納帳に記載し日々管理を行っている。また、御家族様の面会時などに御家族様に揭示し確認を頂いている。	○	必要に応じた連絡・報告を今後も密に行っていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時などに、事業所内・外の苦情相談窓口の説明をしている。また面会時やケアプラン説明時などを利用し、ケアだけではなく事業所についての意見を伺うようにしている。	○	御家族様が意見・不満を言えるような環境作りを今後も継続して行っていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会社で年に1回行われているスタッフアンケート、スタッフの相談窓口があり、又拠点においては、日常的なコミュニケーションを図り、提案や意見を出しやすい雰囲気作りにも努めている。また定期的にユニットミーティングを行い意見を聞く機会を設けている。	○	日常的なコミュニケーションを行っていくとともに、提案や意見が出やすいような環境作りを今後も継続し、ユニットミーティングなどを使い意見の反映に努めたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	法定要員以上に職員を配置し、緊急時や入居者様の要望に柔軟に対応できるよう努めているが、土・日の対応が困難な場合がある。	○	平日だけでなく、土・日も柔軟に対応できるよう調整に努めていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットに固定職員の配置やユニット兼務者を設ける事で出来る限り顔なじみの職員を作り、異動を最小限に抑えるよう努めている。また、職員の異動がある際には情報を共有し、統一したケアを心掛けている。働きやすい環境を目指し、離職者を極力少なくするよう努力している。	○	職員に長く働いてもらうよう環境作りを行うとともに、入居者様のなじみの関係が継続できるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎月勉強会を行い、同じ内容の勉強会を2回行う事で参加し易いよう配慮している。外部講師による研修があり、外部研修にも参加できる機会を設けているが全職員が受講するに至っていない。</p>	<p>○</p> <p>全職員がバランス良く研修に参加出来るよう調整に努めていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同一区内の管理者会議に参加している。会議で交換見学会などが企画されてが、双方の日程が合わず実現できていない。</p>	<p>○</p> <p>同一区内のネットワークは構築できている。そのネットワークを活用し見学会などを実現させたい。また、グループホームだけでなく、他サービスを見学する機会を設けていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>十分に休息が取れるよう、有休の利用など可能な限り職員の休日確保に努めている。スタッフ相談室の設置、アンケート等で働きやすい環境やストレスの軽減が図られている。また、職員の休憩室と休憩時間を十分に確保できるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>職員のストレス軽減の為、今後も環境の整備に努めるとともに、休憩時間を十分に確保できるよう、職員の勤務調整などを行ってきたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の勤務状況や努力の把握に努め、パートから契約社員への変更・年一回の昇給に反映させている。資格手当などの整備や職場内研修を実施し、向上心を持って働けるよう取り組んでいる。また、今年度より資格受験者を対象としたセミナーを開催しており希望者が参加できるよう勤務調整を行って。</p>	<p>○</p> <p>今後は拠点においても資格取得に向けたバックアップ体制を更に充実させたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居相談時から入居に至るまでの間にご本人様との面談の機会を設け、ご本人様のお話も伺えるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して行っていくとともに、情報収集を密に行い、信頼関係を深めていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居相談者からのお話をゆっくりと伺える時間を確保すると共に、見学をお勧めして不安や悩みを話しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談の時点でじっくりとお話を聴くことにより相談内容の実態・現状を把握し、グループホーム入居以外にも相談者が必要としている最善のサービスを見極め提案するようにしている。	○	相談者が適切なサービス利用が出来るよう支援するためにも他サービスについても知識をつけていきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居日までの間に可能であれば、遊びに来て頂く感覚でグループホームへの来訪の機会を設けている。その際にグループホームの雰囲気を体験して頂くことを目的として、他入居者様や職員と食事やおやつを共にして頂くよう提案している。	○	本人が安心し、納得した上でサービスの利用を受けられるよう体験内容の充実などを行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様に相談し意見を聞きながら支え合う関係を保ちつつ共に生活している。また、昔ながらの習わしや季節ごとの行事の際には知識をお借りし、力を発揮して頂いている。	○	認知症介護の専門性を高め、そのうえで入居者様と職員が喜怒哀楽をともにし、入居者様からたくさんのことを学んでいきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居相談時から入居されてからも、入居者様の近況を報告させていただき、どのような支援が必要なのかを一緒に考え本人を支えているが全家族には至っていない。	○	入居者様の近況などを密に報告、連絡、相談させていただき、信頼関係を今後も築いていき、また、家族参加型の研修などを開催し支援などに参加していただけるよう働きかけていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族関係などをより深く把握し、ご本人と御家族様との関係がよりよいものになるよう個々の事情なども考慮し支援を行っている。	○	今後も継続して行っていくとともに、本人と御家族様がよりよいものになるよう関係の理解に努めていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族様と相談しながら、これまでの慣れ親しんだ場所や関係が崩れないよう入居前に住んでいた地域の友達のところへ外出する・習い事などの継続を支援している。	○	今後も継続して行っていくとともに、本人・御家族様と相談しながら、支援を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様の関係を把握し、入居者様同士が協力しながら家事や調理に参加していたり、ただのようないくつうを行っている。また、ユニットを問わず関りが持てるよう支援している。	○	今後も入居者様の関りを支援しながら、1人1人が孤立しないよう取り組みを行っていききたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後もグループホームへ遊びに来てくださっている御家族様がおり、気軽に遊びに来ていただけるよう環境を整えている。	○	契約終了後もいい関係が保たれるように、また、介護サービスの相談にいつでも対応できるようこれからも体制の維持に努めていききたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の生活の様子を把握するとともに、入居後より日々の記録・会話・様子などを渡し、入居者様の思いや意向を把握するよう努めている。	○	日々の会話や記録などを使い、情報収集を継続し、1人1人の意向を把握できるよう今後も努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や御家族に話を聞いたり、センター方式などを使用しこれまでの暮らしの把握に努めているが、記録があいまいな点があったり、不十分な部分がある。	○	入居前から、入居されてからも全スタッフが本人のこれまでの暮らしを把握できるように情報収集・記録を充実させるなどを行っていききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の申し送りやミーティング・カンファレンスの場を通して職員が情報を共有し入居者様の情報把握に努めている。	○	日々の記録などを充実させ、統一を図り、より入居者様の暮らしの把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員、計画作成担当者が中心となり、定期的なケアカンファレンスを実施し、ケアプランの見直し・職員の意見の反映に努めている。また、御家族様に説明させていただき、意見を頂いている。	○	今後は医療関係者などの意見も取り入れるよう機会を設けていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた見直しの他に、状況の変化などに早急に対応できるよう努めている。また、見極めの期間などには、介護支援専門員の指導の下職員が観察を強化し、適切な介護計画となるよう協力している。	○	介護支援専門員を中心とし、今後も入居者様1人1人に即した介護計画を作成していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録へ記入し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。また、日々の記録の書式を状況に応じて見直す工夫も行っているが記録は十分に充実したものとなっていない。	○	記録の書き方方法などの研修を開催し、今後記録などが充実するよう行っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族様・本人の希望・必要性があった際には、往診以外に外来で病院を受診するなど、柔軟な支援をおこなっている。	○	今後も御家族様・本人の希望に応えられるよう、スタッフの配置など柔軟な支援を行っていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	半年に1回避難訓練を実施している。また、地域の交番や消防その他関係機関に働きかけ、グループホームの存在を理解して頂き協力を得ている。	○	今後も継続して行っていき、また、レクボランティアなどの介入の検討していく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	隣のディサービスに麻雀をいりにいくなどの支援を行っている。	○	本人・御家族様の希望があった際に早急に柔軟に対応できるよう環境を整えていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは運営推進会議に参加して下さっているが、他の交流はなし。	○	運営推進会議以外にも交流・協働が行えるよう働きかけ、交流・協働機会を作っていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療をうけられるように支援している。	入居時には、御家族様の希望をお聞きし、納得が得られたかかりつけ医に適切な医療をお願いしている。入居前からかかっていた、かかりつけ医をお願いしている入居者様もいらっしゃる。	○	今後も現状を維持し、入居者様の健康管理に努めていく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診医はいずれも認知症に関する知識があり、気軽に相談できるような関係が築けている。また、日常的な往診の他に必要に応じて、他医療機関・専門医などの紹介も行ってくださる。	○	今後も現状を維持しつつ、入居者様の健康管理に努め、また、往診医との連携を深めていきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を配置しており、気軽に相談を行える関係にある。また、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。	○	事業所看護師を中心とし、往診医療機関の看護師とも連携を深めていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には面会に行かせていただくなど、ご本人が安心できるよう努めている。また、病院関係者と情報の交換・相談をしたりと、早期退院に努めている。	○	退院後のケアの方法や注意点などをより把握する為に、情報交換・相談などを密に行っていきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に御家族様やご本人に終末期の希望を伺うようにしている。また、看護師・主治医の協力を得ながら、御家族様・ご本人の意向に沿えるよう支援している。	○	今一度全職員で話し合いの場を設け、御家族様・ご本人の意向を取り入れた方針を決めていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の入居者様がよりよい暮らしのため、事業所の出来る事・出来ない事を見極め、かかりつけ医とともにチームとして取り組んでいけるよう支援を行っている。	○	今一度全職員で話し合いの場を設け、御家族様・ご本人の意向を取り入れた方針を決めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	別の居宅へ移り住む際には必要な支援を行うよう準備を行っているが、別の居宅などへの住替え事例はなし。	○	住替えがスムーズに行えるような支援の準備を今後も行っていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報の取り扱いについて会社として個人情報保護方針がありそのルールに沿っている。また、定期的に個人情報チェックシートを全職員に対し行っている。	○	忙しい時の声掛け・対応が適切でないことがある。常に落ち着いた態度で入居者と接することができるよう環境の整備を行っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	各入居者様にあわせ、ケアの1つ1つを入居者様に都度説明するなどの対応・支援を行っているが、全てのケアについて理解や納得を確認できてはいない。	○	各入居者様が納得して暮らせるよう1人1人にあった声掛けの把握を徹底したい。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームでの生活には、特別ルールなどを設けてはいたなく、食事や入浴など生活全般において1人1人のペース・体調に合わせた支援を行っているが全入居者様の希望に沿った支援は行えていない。	○	全入居者様のペースを把握し、希望などに沿えるよう、勤務調整などの環境作りに努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容を利用しており、日常生活においてもその人らしいお洒落や服装ができるよう心掛けている。顔なじみの理美容を利用されている方もいる。また日々の衣類選びは可能な限り本人と行き、化粧などの支援も行っている。	○	今後も継続しておこなってほしい。
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	各入居者様にあわせ、食事の形状を工夫するなどを行っており、出来るだけ希望に沿えるようメニューの変更なども行っている。調理に関しては出来るだけ多くの食材を使い栄養バランスがよく、見た目でも楽しめるよう支援を行っている。	○	食事介助の方がおり、現在では職員と入居者様が一緒に食事をとる風景が少ない。環境の整備などを行い、改善に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調面や御家族様の意向を配慮しながら、一緒に買い物へ行ったり、本人の好む物を自由に楽しめるよう支援を行っている。また、タバコに関しては、喫煙場所を作り、職員の付き添いのもと楽しんでいただいている。	○	今後も御家族様・往診医と相談のうえ、本人の嗜好の支援を行っていききたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄が行えるよう個別のトイレ誘導などの支援を行っている。また、下着の適正について話し合い、各入居者様1人1人にあった排泄支援をおこなっている。	○	今後も排泄パターンの把握に努めるとともに、各入居者様にあった排泄を職員一同で話し合い、気持ちよく排泄ができるような支援を行いたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回の入浴を基本とし、曜日や日付の固定などはせず、入居者様1人1人にあった入浴支援を行っている。また、入浴希望時には出来るだけ応えられるように支援をおこなっている。	○	入居者様の体調や状態に留意しながら、入浴の希望に沿えるよう支援を継続したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間の決まりは無く、各入居者様ご自分の習慣や意志に基づき就寝されている。また、昼夜逆転に注意しながらも、日中の臥床時間も設け安心して休息・眠りが確保できるよう支援をおこなっている。	○	安心して休息・眠ることができるよう、日々の記録などを使い、入居者様の状態・状況を把握し、1人1人にあった支援を今後も継続して行っていききたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様に合わせ、歌を歌われたり、麻雀をされるなど、各入居者様の役割や楽しみごとにつながる支援を行っているが、全入居者様には至っておらず、十分ではない。	○	レクリエーションを企画し、日々の暮らしの中に組み込むなど入居者様が役割・楽しみ・気晴らしが出来るよう支援を行っていききたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日頃から金銭管理をされている入居者様もおり、日頃金銭管理をされていない入居者様にも、買い物時などにはご自分で支払いをして頂くなどの支援を行っている。	○	今後も継続して行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や体調に合わせて、外出支援を行っている。また、希望時には、出来るだけ外出できるよう支援を行っているが、十分ではない。	○	外出機会を増やす為、勤務調整を行うなど、工夫を行っていききたい。また、冬期間中に関して、入居者様が安心・安全に外出できるような支援を行っていききたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	普段行けない場所への外出希望時には、沿えるよう支援を行っており、御家族様の協力のもと行えている入居者様もいるが、十分ではない。	○	入居者様1人1人のいきたい場所の希望を把握し、御家族様と相談のもと、普段行けない場所への外出機会を確保したい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している。	入居者様が希望される際など、電話やFAXで御家族様とやり取りされるなどの支援を行っている。	○	今後も継続して行っていききたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よ く過ごせるよう工夫している。	いつでも面会に来ていただくよう、面会時間の制限はなく、面会時には居心地良く過ごしていただく為の支援を行っている。遠方から来られた方など、グループホームに泊まっていられる方もいらっしゃる。	○	今後も継続して行っていき、気軽に来ていただけるような環境の整備に努める。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をし ないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないような支援を心掛けているが、介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を全職員が正しくは理解していない。	○	研修などの学びの場を設け。全職員が正しく理解するように努めたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者様の希望時以外に、日中に居室・玄関に施錠はしておらず、入居者様が弊害を感じないよう支援を行っている。	○	入居者様の状況や変化に合わせて検討を随時行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	所在確認表を用いて1日4回各入居者様の衣類の色や特徴を把握し、所在確認につとめている。また、日中・夜間ともに入居者様が居室内で過ごされている際には、職員同士で声を掛けあい所在確認を行っている。	○	職員間の声掛け・チームワークを強化し事故防止や安全に努めていきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品に関しては、御家族様・ご本人様に了解を得て、預らせていただいているが、入居者様の状態に合わせ、自由にお使いいただいている方もいる。また、注意の必要な物品を使用する際には、スタッフが付き添い安全の確保に努めている。	○	今後も継続して行っていきたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月に1回事故対策ミーティングを開催しており、事故報告書やひやりはっと報告書を使い入居者様1人1人の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングを今後も開催し事故を防ぐよう取り組んでいきたい。また、事故防止のためマニュアルの見直しなども検討していく。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的には行っておらず、全職員が訓練を行えていない。	○	定期的な訓練の開催機会を設ける。また、ミーティングや申し送りを使い、今後起こり得る急変や事故発生に備え話し合いを行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回避難訓練を入居者様も参加し実施している。運営推進会議で地域の方に協力は得られるよう働きかけおり避難場所などについてもご説明いただいているが、十分ではない。	○	避難訓練などにも地域の方をお呼びし、働きかけをおこなってきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	各入居者様の状況に応じ、都度起こり得るリスクを説明させていただき、理解をいただいたうえで御家族様とともにリスク対応について話し合いをさせていただいている。	○	今後も継続して行っていく。また、御家族様と密に相談させていただくよう働きかけや場を設けていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェック・日々の暮らしの中での体調などの変化に留意している。また健康管理表を用いて、入居者様の状態を把握し、変化や早期発見・対応に努めている。	○	日々の様子観察・健康管理表を用いて入居者様の体調の変化の早期発見に努め、速やかに対応できるような環境を今後も整えていきたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が中心となって服薬の支援・指導を行っている。また、薬に関するマニュアルを作成し誤薬事故などがないように努めているが、全職員が、薬の副作用・用法・用量の理解をしてはいない。	○	職員の意識の向上を図るとともに、全職員が薬の知識を高められるよう研修会などを行っていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	看護師や往診医とこまめに相談し、健康管理表を用いて排便状況を把握し便秘の予防に取り組んでいる。水分や食事の形状を各入居者様に合わせるなどの工夫も行っている。	○	入居者様1人1人の排便状況を健康管理表などを用いて把握し、今後も便秘予防に努めたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床・就寝・毎食後に口腔ケアを全入居者対象にて実施している。また、月に2回訪問歯科を利用し、口腔状態のチェックや職員に口腔ケアについて指導を行ってくださっている。	○	今後も継続して行っていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様の状況に合わせ、食事の形状を工夫するなどをおこなっている。健康管理表を用いて各入居者様の水分・食事の摂取量などの把握に努めている。	○	入居者様1人1人に合った食事の形状や水分摂取の工夫などを今後も行っていきたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	面会や訪問されてきた方には手洗い・うがいを徹底して行っていただいている。マニュアルを作成しているが、全職員がマニュアルの把握は出来ていない。	○	マニュアルの周知・掲示を行う。また、季節毎に応じた感染症などを予防する為にミーティングや研修行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日台所掃除を行っている。他に、冷蔵庫・台所の棚掃除を行う取り決めがある。食材は新鮮なものを使えるよう、食材納入業者の意見を参考にしながら、納入回数、納入量などを調整している。	○	食材の使用や管理、台所掃除など衛生管理を徹底し食中毒予防に努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏季には玄関前の花壇に花を植え、また入居者様・職員手作りの看板を設置しているなど親しみやすい環境作りに努めている。また冬期間には除雪をまめに行うなど、玄関先などの環境整備を行っている。	○	安心して出入りが出来るよう、玄関まわりの清掃の強化など環境整備を行っていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所が開放的な作りとなっており、生活観を感じれるような作りとなっている。また、共用空間において、職員の話し声や物音に気をつけるなどの配慮を行っている。季節感を感じれるように季節毎の飾りや置物を置くなどの工夫をおこなっている。	○	季節感などを感じていただく為、職員とともに行事毎の飾りや置物を入居者様と一緒に作れる様な支援を行っていききたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間や食堂など入居者様のスキな場所で過ごしていただけるよう支援を行っている。また、ユニットに関係なく気の合う入居者様同士が思い思いに過ごしていただけるよう支援をおこなっている。	○	ユニットに関係なく気の合う入居者様同士が思い思いに過ごしていただくよう、今後も支援を行っていききたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の物品は全て持ち込みとなっている。自宅などで使われていた慣れ親しんだものを持ち込みいただくよう、御家族様に働きかけ、本人が居心地よく過ごせるような環境作りに取り組んでいる。	○	今後も入居者様1人1人の生活歴や個性を尊重し、慣れ親しんだ環境作りに努めたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者様の希望・状態に合わせながらも、こまめに換気をさせていただき、室温などが適切なものとなるよう心掛けている。また、共同空間にて加湿器を設置、湿度にも留意している。	○	今後も継続して行っていききたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	グループホーム内は全てバリアフリーとなっている。手すりなどは必要な箇所に設置し入居者様1人1人の身体機能を活かせるようになっている。必要に応じて廊下には手すりが設置可能な作りとなっている。また、共同空間において、足元などに危険なものを置かない様心掛けている。	○	入居者様の状態や状況に応じた自立支援の今後もおこなっていく。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室前には、ご自分の名前が確認できるよう表札・写真を貼っている。トイレには場所がわかるように目印をつけ自立した生活を送れるよう工夫をおこなっている。	○	入居者様の状態や状況に応じた自立支援・工夫を行っていきたい。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	駐車場を利用し、焼肉などを行っているが、十分なスペースがない。また、玄関前の花壇に水やりを行うなどの活動をおこなっている。	○	安全に留意しつつ、建物の外回りや空間を使用し入居者様が活動できるような支援を行っていきたい。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・当グループホームとして、特別なルールなどは設けず、ご入居者様が思い思いに安心して生活していただくよう支援を行っており、入居者様が健康で楽しく、可能な限り自由な生活を送れるよう環境を整えております。御家族様にはいつでも気軽に当グループホームに来ていただけるよう、グループホームに対する不満や悩み・意見などなんでも話していただくよう関係作りに取り組んでおります。職員は明るく、楽しいグループホームを目指し、入居者様と生活をともにし、ともに考えての支援に力をいれており、入居者様の毎日が充実するように努めております。

・終末期ケアの取り組みを行っております。日常的に医療行為が必要な方は、職員の医療行為が行える範囲内に限られています。本人や御家族様の希望などがあった際には、医師や看護師・御家族様と話し合いの場を設け、本人の望む、または、望むであろう最期に向かって出来る限りの支援をさせていただきます。